

研修先	地方議員研究会
日 時	2019年 7月23日 14時 ～ 7月24日 12時30分
場 所	リファレンス駅東ビル
テーマ	役所を動かす質問の仕方
対応者 (講師)	川本達志 (自治体経営コンサルタント、元廿日市市副市長)
概 要	
<p><b>1. 実務的な質問の仕方</b></p> <p>1 いい質問とは、住民全体の福祉の向上に関して成果を出すこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民への明確な情報提供 (共有)</li> <li>・ 隠れていた重要な課題を見える化 (理解) EX) 180億の産業団地造成、売れる見込は?</li> <li>・ 課題解決のための政策を提案し実現 (実現)</li> </ul> <p>2 成果を出すための段取り・事前準備が重要: 段取り 8部、複数回の質問</p> <p>3 一般質問とは: 一人の議員として、問題点を問い質し、具体的施策を提案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議会活動の主要なもので、議員活動の中でも最重要の活動</li> <li>・ 政策を執行部のマネジメントサイクルの乗せる大きな機会</li> <li>・ インターネットで録画・放映されるなどから、綿密な準備と最良なパフォーマンスを</li> </ul> <p>4 自治体のマネジメントサイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PDCA サイクル: Plan 予算—Do 執行—Check 決算審査—Action 成果</li> </ul> <p>5 住民の利益のためには、議会と住民の監視力を強くすることが必要</p> <p>6 準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現場調査:             <ul style="list-style-type: none"> <li>住民との対話・生の声 (*議会報告会は、議会が機関として住民から聞き取り)</li> <li>客観的事実の調査と提示 (資料収集 (文書、数字、アンケート...))</li> <li>* 執行部に調査させる質問をする (より詳しく調査する必要があるのではないか)</li> </ul> </li> <li>・ 課題の抽出: 視座・視点、制度とのギャップの発見 (EX 就学援助の所得基準は?)</li> <li>* 事実認識の共有と課題意識への共感</li> <li>・ 仮説の設定: 解決のためのアプローチ設定             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 知識と情報、テーマの深堀</li> </ul> </li> <li>・ 検証による修正 (*住民に聞く、専門家に聞く、先進自治体に聞く)</li> <li>・ 質問のリハーサル: プレゼンテーション             <ul style="list-style-type: none"> <li>* 市民への情報提供への大きな手段・市民の意思醸成へ、繰り返し質問を深堀り</li> </ul> </li> </ul> <p>7 執行部は質問をいかに受け止めているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ その事実は広く一般的事実として存在するか?</li> <li>・ 現時点で課題として認識するべきものか?</li> <li>・ 執行するのに様々な事前調整が必要</li> </ul> <p>8 市民の要望に応えられない執行部 (財源不足、人材不足) —議員が政策提案質問 EX) 道路の穴ぼこにより事故多発—人命事故の恐れ・損害賠償—早期発見修繕・通報</p>	

## 2. 私がうなった質問はこれだ！

### 1 質問のタイプは3つ

- ・ 自己主張型
- ・ 課題・責任追及型
- ・ 政策提案型

### 2 政策提案型質問の構造（質問を通じて執行部と一緒に政策・施策を作っていく）

- ・ 現状認識—共有
- ・ 課題認識—共感
- ・ 仮説・検証・提案—理解
- ・ 期待される成果—行動

### 3 現状認識—共有

- ・ 正確であること
- ・ 自分で確認すること（ヒアリング、取材による生データ）
- ・ 数字を付ける（出処を明確に＊省庁統計、RESAS）
- ・ 物語（ストーリー）があること（EX 就学援助制度、近所のAさん）
- ・ 調べればわかる数字を議場で問うのはムダ

＊現状認識に誤解があると質問に答えるのは無理

### 4 課題認識—共感 ＊もっとも重要

- ・ 問題発見とは、現状の制度では解決できていない
- ・ 地域事情を踏まえた課題認識はより共感
- ・ 趣旨一貫した理念の下での質問
- ・ 社会情勢や環境の下で優先度が高い課題
- ・ 支援者、多数の強力な支援者がいれば共感は得やすい
- ・ タイミングがある
- ・ テーマを続ける。深堀していく。1回の質問で決まることはない。段取り計画が必要
- ・ 理路整然と論理を展開する。曖昧答弁には本気で怒る。ユーモアを交える
- ・ 仮説プレゼン：簡単な言葉で、論理的に、創造的に魅力的に、実現可能性を
- ・ 他団体の事例は、検証に使う（現状—課題認識—仮説—検証—提案）
- ・ 検証：当事者や住民の意見を聞く、他団体の成功事例、専門家の意見を聞く
- ・ 提案：財源を示せ！必要な事業費を示し財源を示す（財政調整基金など）

### 5 絶対要件

- ・ 現状認識が正確で共有できる
- ・ 課題認識が時宜を得て共感できる
- ・ 仮説（提案）が十分検証されている

### 6 答弁に対する対応

- ・ 実施は困難です：できません
- ・ 研究します：頭の片隅にはおいておきます。＊再度質問する。不作為の責任を問う
- ・ 検討します：実施を前提に執行部内で考える＊進捗を確認して再度質問する

画像（略）

- ・実施に向けて検討します：予算措置を考える＊予算編成前に確認
- 7 役所が動く質問のポイント
- ・住民の意見を多数集約
  - ・既存制度を理解して制度と現実が生んでいる課題の齟齬を明確化
  - ・解決策を住民と調整
  - ・質問を複数回にわたって進める
  - ・役所との事前の調整
- 8 課題・責任追及型の質問
- ・現状認識の正確さが不可欠
  - ・生の事実で執行部が不知の事実がイニシアチブを握る
  - ・そのうえで、執行部の課題認識や仮設の矛盾を突く
  - ・着眼：違法・不当な権限の行使、成果のない事業の継続、財政運営上の課題、  
首長の不適切な行為、議会無視・軽視＊機を逃さない（法律知識要）
- 9 議会が機関として政策的意思をもつ
- ・議員提案も委員会提案もできる
  - ・予算修正もできる
  - ・調査もできる
  - ・専門家の意見も聴取できる
- ＊まとめれば執行部も無視できない。議会が政策をリードできる

## 所 感

廿日市市の副市長、広島県庁職員・部長としての長年の執行部側の経験を通しての、議会と議員の役割、一般質問についての講義は、大変参考となった。特に、現場調査、課題の抽出、仮説・政策の設定、検証による確認、というステップ、1回では実現しない、あきらめず課題を深掘り質問を重ねる事での実現、など二期目の議員活動に活かしていきたい。中学校の完全給食自校式、子どもの貧困の防止、不登校の子どもの居場所と学習機会の確保、小学校からの安心安全自信 CAP 教育の実施など、1期目から追求してきた課題の実現に向けて、大いに参考となった。一作成者 松崎百合子